図書館報

第56号
愛媛県立西条農業高等学校図書室
令和7年3月1日発行

「教わる」から「教える」へ　　教頭　相原　克也

西条農業高校では、以前から盛んに交流学習が行われています。また、今年度も、地域の中学生を対象とした、ふれあい体験を複数回、開講することができました。

本校では、せっかく身に付けた知識・技術があまり地域の方々に知られていないのが課題となっていたため、西条農業高校の施設と機能を知っていただくことで、生徒が指導者となり、学習内容の充実と発展を図り、学校と地域の連携をさらに強化することを目的に、各種交流活動が行われています。

学校である以上、“生徒が主役”です。普段の授業で学んだことを理解し、わかりやすく相手に伝え発信する一連の授業の中で、普段の授業に対する意識も高まります。最初からうまく説明できれば誰も苦労しません。私たち教員は、「生徒自身が、あの時、このように伝えておけばよかった。こうしておけばよかった。」という、生徒の振り返りが、次への大きな一歩につながると考えています。

私は、生徒が誰一人弱音を吐くことなく、しっかりやり遂げる姿を見る中で、生徒が「教える」ことに自信を持つようになるのは、一体どの場面からなのか、と考えていました。交流活動では、生徒は皆、「教える」立場になりますが、確かに、教えるのが苦手な高校生もいるだろうと思います。

生徒はそれまで「教わる」立場から、時として、「教える」立場となります。同じようなことが、読書の世界にもあるのではないかと思います。

「絵本や子ども向けの本」から「単行本や文庫本」いわゆる「大人向けに書かれた本」を読むようになるのはいつからか、それは、きっと人それぞれでしょう。

高校生の皆さんへ。本格的な小説を読んでいない人は、簡単で短いもの、映画化されたものから始めてみてはどうでしょうか。難しい本でなくてもいいのです。

忙しくて本を手に取ることができない皆さんも、少しの時間でいいですから、本を読むひとときを作りだしてください。そのとき読んだ本が、自分の将来を決めるかもしれません。

読書の意義をもう一つ。

これから私たちが生きていく時代は、答えの見つかっていない問題を、一人ではなく、みんなで解決していかなければならない時代です。問題の解決に取り組んでいる途中で、人と意見が違っても、意見の異なる人のことを思いやり、「他者感覚」を持って、助け合いながら、みんなが納得する答えを見つけようとするとき、人は成長するのだと思います。私は、このことを、様々な機会をとらえて、生徒の皆さんに伝えてきました。

普段の生活では味わえない感動を味わえるもの、そして、この時代に生きていくための「他者感覚」を身に付けることができるもの、それが読書です。

生徒の皆さん、感動を味わうために、また、「他者感覚」を身に付けるために、本校図書館に足を運んでみてください。

テクノロジーの発達　　地歴公民科　平塚　敏明

１年ほど前、ニュースで、こんな話を聞いた。それは、「株式会社ＩＨＩが、海中の金を吸収する海草を開発した」という話だ。びっくりした。だって、「金を吸収する海草」という話は、私が、中学時代に読んだ星新一のＳＦ小説とそっくりだったから。それは、『金色の海草』という話だ。テクノロジーが発達すると、これまでの不可能が可能になる。

例えば、マグロの完全養殖。これまで、マグロの養殖は、天然稚魚を育てて出荷していた。これでは、天然資源が枯渇してしまう。そうならないためには、養殖魚から卵を取らないといけない。これを完全養殖という。近畿大学が、2002年にこれを達成した。

アマゾンで、『マグロ完全養殖』という本を見つけた。3,960円だ。中古だと、送料込みで約500円。これは、買いだ。この本の関連で、『サバがマグロを産む日』という本を見つけた。これは、マグロ養殖の効率化のために、サバを代理母とする話。

養殖に関しては、新しい時代が到達した。ウナギやタコの完全養殖。今までの不可能が可能に変わっていく。そういえば、中学時代、農文協の特産シリーズで『どじょう』や『うずら』を読んだ。「どじょうの人工授精には、ウシガエルの脳下垂

体を使う」や、「ウズラの糞は、肥料効果が高い」など、当時得た知識は、その後の人生で、何の役にも立たなかったが。

次に、あの頃読んで印象深かったのは、伊藤芳夫が書いたサボテンの栽培法。彼は、その本で、**「接ぎ木をすれば、台木の特徴が穂木に継承される。その特徴は、穂木を台木から外しても変わらない。すなわち、サボテンの後天的形質は、遺伝する」**と主張した。これは、百年以上も前に決着した遺伝学の基礎基本を否定した見解。「なんで、こんなバカなことを書くのだろう」と思ったが、50年たって、学説が変更になり、**「獲得形質は、遺伝する」**になった。あの頃に戻り、伊藤芳夫に謝りたい。

他にテクノロジーの発達を感じるのは、マツタケの人工栽培。明治時代から失敗続きだったが、同じ特性の本シメジは、人工栽培に成功し、「大黒本シメジ」の名で商品化され、マツタケ近縁種の「バカマツタケ」も、数年前に人工栽培が成功した。あと、少しだ。ところでマツタケの人工栽培は、近畿大学も取り組んでいる。この大学は、書籍化が得意だ。早くマツタケの本を出版してほしい。

さて、近畿大学の書籍といえば、『よみがえれ、マンモス！』がある。マンモスの復活は、近畿大学が長く取り組んでいて、もう何度も「今回は成功？」と噂が流れた。マツタケの人工栽培と同様で、「マンモス復活」は、秒読み段階になっている。

昨日の非常識は、今日の常識。不可能は、可能になる。そんな時代を生きる私たちは、本当に幸せだと思った。

「見えない労働」と女性たち　英語科 ALT Zosia East（ゾシャ イースト）

最近、私は『見えない女性たち：男性のために設計された世界におけるデータバイアスの暴露』という本を読みました。この本は、イギリスのフェミニスト作家キャロライン・クリアド・ペレスによる2019年の著書です。この本は、大規模データ収集における性別による差（性差）が女性に与える悪影響について書かれています。

具体的には、女性用トイレの待ち時間など身近な問題から医療現場の生死に係る状況までのデータが収集されています。女性の世界人口は、全体の約半数ですが、世界的に見ても教育や就職の機会は不平等でなのが現実です。

私が興味を持ったのは推薦状の内容を調査したものでした。それによると会社を「一つのチーム」と考えた時、男性はリーダー、女性はフォロアー（補佐）と表現されていることが多いとのことでした。女性のリーダーが認められるようになるには、女性がキャリアアップし、管理職なる必要がありますが、女性は、仕事だけではなく、家事や育児といった「見えない労働」を担うことが多く、共働き家庭においても男性より多い傾向にあるようです。

では、「見えない労働」を抱えた女性は、どうやってキャリアアップをするのでしょうか？重労働であるにも関わらず、対価（賃金）が支払われず経済とみなされていないそれらは、女性の負担が多いだけではなく、社会進出の妨げとなります。

現在、経済が停滞している日本では少子高齢化が進み、労働力不足が社会問題となっています。ＡＰ通信（アメリカの通信社）によると、日本の人口は、若年人口（０～14歳）を1とすると、労働年齢（15～64歳）は5.2倍、高齢人口（65歳以上）は2.6倍となっており、2070年までに人口の40％が65歳以上のなると予測されています。このような人口構成の日本において、経済を維持するために女性の労働力は不可欠であるにも関わらず、女性は家事や育児、そして介護に追われ社会において力を発揮できないのが現状です。なぜ、多くの女性が仕事と家事の両立が難しいのでしょうか。まだまだ産育休、保育園などの社会保障が十分ではないこともありますが、オフィスの平均的な室温は、女性にとって約５℃低いこと、段差やガラス張りの建築物（スカートに配慮されていない）など会社の環境にも理由があると本書は述べています。また、日本では男性の育児休暇取得率が46.2%とまだ、男性に育児の機会が十分ではないことも要因の一つであるといえます。

これらの状況を改善に女性が働きやすい環境を作るにはどうすればよいのか。一部のフェミニストや政治家だけはなく、それは、私たち女性が、「家事や育児、介護は女性がするべきだ」というステレオタイプを打ち破るために学ぶことが大切です。また、女性の考えや女性を取り巻く環境は変化しているため、それに合わせて社会や男性の意識も変わっていくことを望んでいます。

私も将来結婚し、子供を持っても仕事を続けたいと考えています。その時パートナーとよりよい家庭を築くため、そのためのよい選択ができるようにするため、これからも多くのことを学び続けたいと考えています。

紛争と平和―テツコとナオキとヤスクニと― 図書室担当　菊澤幸美

「現代の国語」の教科書に『黄色い花束』という教材がある。内容は、筆者・黒柳徹子さんが、バルカン半島へ赴き、ユーゴスラヴィア紛争後の「コソボ」に残る紛争の傷跡や、子供たちを取り巻く過酷な現状を自身の戦争体験と照らし合わせて著したものだ。黒柳さんは、ユニセフ親善大使として世界中の紛争地を訪れ、子供たちのために活動されている。

90年代、旧ユーゴスラヴィアの国々が独立を求め、武力紛争に発展した。当時、『ベルばら』に夢中だった中学生の私は、バルカン半島が「ヨーロッパの火薬庫」といわれ、そこに住む人々が、何度も戦禍に巻き込まれた、ということを学校で習ったばかりで、それらが「歴史」ではなく、現在も続いていることに衝撃を受けた。日々変化する戦況が気になり、よくニュースを見ていた。だからユーゴスラヴィア紛争のことは、鮮明に覚えていると思っていた。大学生だった98年、ついにコソボ紛争が勃発した。

今年の夏休み、教材研究（授業の準備）のため市立図書館へ行き、1997年から2022年に出版された旧ユーゴスラヴィア紛争に関する本を数冊読んだ。本文にある「民族的な憎しみ」という部分について詳しく知りたいと思ったからだ。すると鮮明だ、と思っていた記憶は曖昧だった上、後に行われた裁判や、取材などで明らかになった事実も多くあった。読むのにかなりの時間を要し、途中、高校で世界史をもっとまじめに勉強しておけばよかったと何度も後悔した。

今回、様々な立場の人が、それぞれの視点で書いた本を読んだ。それらは時代や立場によって見方が違っていて、多角的にこの紛争を知ることができた一方、平和を希求する強い思いはすべての本に共通していた。著者たちが、命がけで取材したことばの重みが胸を打った。

「コソボ」を知りたければ、飛行機を乗り継いで実際に行ってみるのが一番いい。おそらく、町のいたるところに紛争の傷跡があり、その悲惨さを肌で感じるだろう。同時に、独立を宣言した今の人々の暮らしを見て、そこから学べることは多いだろう。しかし、やはりバルカン半島は物理的に遠い。だから本を読む。本を通して「コソボ」を見て聞いて感じる。実際の経験には遠く及ばないが、事実を知り、人々の悲しみ、憎しみ、恐怖、そして紛争で心身に深い傷を負いながらも懸命に生きる人々の思いを受け止め、これからの生き方を考えることができる。

さて、今年の1冊は図書委員の間で少し話題になった百田尚樹『永遠の0』。特攻兵でありながも「生きたい」と切に願った宮部のやるせない思いに胸が苦しくなり、平和や命の重みを考えさせられた。今の平和は当たり前ではないのだ、と。そんな思いから、今年修学旅行の引率で東京を訪れた折、靖国神社を参拝した。そして、そこに祀られている方々に、これからの世界が平和でありますように、とそっと祈願した。

図書統計（令和７年２月17日現在）

単行本貸出冊数

変な家	雨穴	15 冊
変な家　２	雨穴	9 冊
変な絵	雨穴	8 冊
街とその不確かな壁	村上春樹	7 冊
マッチング	内田英治	6 冊
小説すずめの戸締まり	新海誠	5 冊
近畿地方のある場所について	背筋	5 冊
オリエント急行の殺人	アガサ・クリスティー	4 冊
くもの糸・杜子春：芥川龍之介作品集	芥川龍之介	4 冊
成瀬は天下を取りにいく	宮島未奈	4 冊
好きでも嫌いなあまのじゃく	柴山智隆	4 冊
教室に並んだ背表紙	相沢沙呼	4 冊
ゴールデンカムイ絵から学ぶアイヌ文化	中川裕	4 冊
みんなこわい話が大すき	尾八原ジュージ	4 冊
六月のぶりぶりぎっちょう	万城目学	4 冊

ライトノベル　シリーズ累計貸出冊数

薬屋のひとりごと	日向夏	50 冊
転生したらスライムだった件	伏瀬	27 冊
わたしの幸せな結婚	顎木あくみ	26 冊
凜として弓を引く	碧野圭	17 冊
道後温泉湯築屋	田井ノエル	10 冊
ぼくたちと駐在さんの700日戦争	ママチャリ	9 冊
楽園の烏	阿部智里	8 冊
京都くれなゐ荘奇譚	白川紺子	7 冊

多読生徒

３年１組	曽波　麻衣　さん	106 冊
２年３組	石井　日菜子　さん	100 冊
１年３組	中川　紗也香　さん	59 冊
３年３組	伊藤　遼太　さん	59 冊
２年３組	渡邊　海綱　さん	52 冊
２年３組	菅野　美羽　さん	39 冊
２年１組	山西　櫂吏　さん	24 冊
３年１組	金子　拓誠　さん	19 冊

図　書　委　員　会　より

図書委員長を務めて　委員長　3年3組　加茂結衣

この１年間、図書委員長を務めて最初は仕事を覚えるので一生懸命でしたが、菊澤先生をはじめ図書委員のみなさんに助けてもらいながらなんとかここまで来ることができました。

ダメダメすぎる委員長ではありましたが、図書委員長として活動できてとてもうれしく思います。副委員長さんや菊澤先生にはいつも御迷惑をおかけしましたがとても楽しい１年でした。ありがとうございました。

1年を振り返って　副委員長　3年1組　金子拓夢

私は２年生から図書委員になり仕事をしてきました。最初の頃は何もわからず先生の教えてもらったことを覚えるのに精一杯でしたが、図書委員としての業務や活動は、楽しかったなと思っています。貸し出し・返却や、新刊受付・廃棄本の入力等のカウンター業務。入荷した本にカバーを付ける業務や新しく入った本や廃棄する本にハンコを押すなど、手作業での業務のほかにもビブリオトークや委員会発表などたくさんの活動をしてきました。

しかし、今では貸し出しの操作等にすっかり慣れ、毎日のように図書室に来てくれている人の顔や本を借りてくれる人のＩＤを覚え、スムーズに貸し出し処理が出来るまでに成長しました。

私がここまで成長できたのは図書室にいる先生たちや先輩たちが丁寧に仕事を教えてくれたからです。本を読んだり友達と話したり楽しかったことや大変だったこと等、図書室で起こったこと一つ一つが私の大切な思い出であり、私の誇りだと思っています。

図書委員会　新委員長・副委員長紹介

新委員長　2年3組　石井　日菜子

私が一年生のとき、初めて図書室に行って思ったことは「新しい本がたくさんある‼ヤッフーーッイ!!!!!」でした。中学生の時はコロナ化で図書室があまり開いておらず、開いていたとしても正直に言ってボロボロの本や、埃をかぶった本、読みたくても数ページなくなっている本などがあり、あまり図書室に行きたいとは思いませんでした。けれど、西農の図書室は農業についての本や、被服についての本だけでなくライトノベルやシリーズもの、映画化された本など色々な本があり初めて図書室に行ったときは心の中でとてもはしゃいでいたのを覚えています。これから、新図書委員長としてたくさんの人に来てもらえるような図書室の雰囲気づくりをしたいです。

新副委員長　2年1組　源代夏己

私が図書室に初めて行った時、ここは静かで落ち着くと感じ、ここでの仕事をしたいと思いまして図書委員になりました。なったのはいいもののどんな仕事をするのか不安でしたが、先輩が優しく教えてくれて安心して仕事をこなせるようになりました。

私は３年生になっても図書委員を続け、静かで落ち着く環境を継続できるように頑張りたいと思いす。

新副委員長　2年2組　伊藤　政喜

私は１年生のころから図書委員をしています。初めて図書室に来た時は想像していたより、ライトノベルや漫画などがおいてあり、「新しいな」と感じました、そんな図書室をもっとよくしていくためにこれからも頑張りたいと思います。

新副委員1年3組　中川　紗也香

２学期に図書室の先生から「図書委員会の副委員長をやってみませんか」と言われて、挑戦してみることにしました。最初は本当に私がしてもいいのかと悩むこともありましたが、やってみるととても楽しく、いろいろな交友関係を作ることができました。

副委員長になったことで、自分の言動や行動にも責任感が生まれ、人間として成長できた年だなと感じました。最初はとても迷いがありましたが、やっていくうちに自然と自信もついてきました。

この仕事をするようになって、あまり緊張することなく人と話せるようになったことが、とてもうれしいです。これからも向上心を忘れずに頑張りたいのでよろしくお願いします。

編集後記　今年度も図書館報が出来上がりました。お忙しい中原稿を寄せてくださった先生方ありがとうございました。

本誌の中に図書委員の石井さんや、伊藤くんが、「新しい本、（読みたい本）がある」と書いてくれました。本校に赴任し、図書室を担当するようになって６年。その間「読みたい本がある図書室を作る」を目標に先輩たちと歩んで来たので、そう思ってくれて、とてもうれしいです。まだまだ西農で頑張りたいな、と思いました。（菊澤）